日本語の題名（タイトル）

- 日本語の副題（あればここに記入） -

筆頭著者氏名\*1、第二著者氏名\*2、
第三著者氏名\*3

\*1筆頭著者所属、\*2第二著者所属、
\*3第三著者所属

This is the Title in English

- Sub-title Here If Any -

First Author\*1 , Second Author\*2 , Third Author\*3

\*1 Affiliation for the first author , \*2 Affiliation for the second author,
\*3 Affiliation for the third author

Abstract in English comes here.

Keywords: Please input 3 to 5 keywords in English.

# 1.テンプレートについて

このMicrosoft Wordファイルは、第45回日本医療情報学会連合大会の詳細抄録作成用の原稿テンプレートである。ここに記載されている内容を参考に、詳細抄録を作成すること。**一般演題の方は、メールでお知らせした受付番号（C00000）をファイル名に必ず入力してください。**

**なお、カテゴリが「学術発表」の場合は詳細抄録は任意であり、「実践報告」の場合は詳細抄録は必須である。**

# 2.詳細抄録入稿について

詳細抄録入稿の際はWordファイルと、フォントを埋め込んだPDFファイルを必ず添付すること。詳細抄録を集めた論文集は入稿されたPDFをそのまま使用するため、指定されたフォントを使用すること。指定以外のものを使用し、フォントが埋め込まれていないPDFを入稿した場合は、文字化けや文字抜けとなる場合があるので、注意すること。

【埋め込みPDF作成方法】PDF作成ソフト(Adobe Acrobat、Just PDF、いきなりPDF等々)をインストールしている場合はプリンターに仮想PDFプリンターを選択し、"最高品質"や"印刷品質"などの設定で保存すれば、埋め込み可能なフォントを全て埋め込んだPDFが作成される。プリンター選択に仮想PDFプリンターが表示されない場合は、各自の環境に応じて対応すること。

MS以外のフォントを使用してもPDFで当該フォントが埋め込まれている場合は可とする。

# 3.執筆要領

サイズはA4縦、余白は上下25.4mm、左右19.05mmとする。タイトル等は1段組、本文以下は図、表を含め2段組とする。段の幅は25.32字、間隔は3.51字とする。

タイトル等は次の順で記述する。題名、副題、著者名、所属機関名（以上日本語）、英語題名、英語副題、英語著者名、英語所属機関名、Abstract、Keyword（3～5個）。

その次に本文を記載する。図表は、本文中に適宜挿入する。参考文献は最後にまとめて記載すること。

# 3.1 標題・タイトル

日本語の標題で使用するフォントは MS Pゴシック、英語の標題で使用するフォントは Arialとする。それぞれ、フォントサイズは14Pとする。段落の行間は固定値とし、間隔を16Pとする。英語の標題の段落前は6Pのスペースを空け、段落後はスペースを空けないこと。

# 3.2 副標題

日本語の副標題で使用するフォントは MS Pゴシック、英語の副標題で使用するフォントは Arialとする。それぞれ、フォントサイズは12Pとする。段落の行間は固定値とし、間隔を14Pとする。副標題の段落前後はスペースを空けないこと。

# 3.3 著者名と所属

日本語、英語共に、著者名の後に上付き文字で \*1 のようにアスタリスク(\*)+番号により、所属を示す番号を記載する。また、所属の前には、上付き文字ではなく、通常の書体で \*1 のように著者名と対応した番号を記載する。

複数の著者名を入れる場合、日本語は「、」で区切る。英語は「, 」（カンマ＋半角スペース）で区切る。

日本語の著者名・所属で使用するフォントは、MS P 明朝とする。英語の著者名・所属で使用するフォントは Times New Romanとする。それぞれ、フォントサイズは10Pとする。段落の行間は固定値とし、間隔を13Pとする。段落前は4Pのスペースを空け、段落後はスペースを空けないこと。

# 3.4 Abstract

「学術発表」の場合は、和文抄録が1600文字程度かつ英文抄録が200 words程度、あるいは英文抄録を800 wordsで記すこと。

「実践報告」の場合は、和文抄録が800文字程度、あるいは英文抄録を400 words程度で記すこと。

Abstractで使用するフォントは Times New Romanとする。フォントサイズは10Pとする。段落の行間は固定値とし、間隔を12Pとする。段落前は6Pのスペースを空け、段落後はスペースを空けないこと。

# 3.5 Keyword

最初に「Keywords:」の文字を入れ、続いてキーワードを英語で3～5語記載する。単語と単語の間は、「, 」（カンマ＋半角スペース）で区切る。なお、キーワードはMEDLINEデータベースのキーワード用語集「Mesh (Medical Subject Headings)」を参考とすることが望ましい。

Keywordsで使用するフォントは Times New Romanとする。フォントサイズは11Pとする。段落の行間は固定値とし、間隔を12Pとする。段落前は6Pのスペースを空け、段落後はスペースを空けないこと。

# 3.6 本文

本文は原則として、緒論、目的、方法、結果、考察、結論、文献の順に記す。必要に応じ謝辞を記す。また、システム開発等では、緒論、開発目的、システム概要、システム評価、考察、結論、文献の順に書く。

本文で使用するフォントは、和文の場合はMS P明朝、英文の場合はTimes New Romanを用いること。フォントサイズは9Pとする。段落の行間は固定値とし、間隔を12Pとする。最初の行は、1文字分の字下げを行う。

# 3.7 見出し

見出しは半角数字を使い、「1, 1.1, 1.1.1」のように3段階まで表記する。見出しの番号と文字の間は半角スペースを入れること。

フォントは全てMS Pゴシックとし、フォントサイズは全て11Pとする。

# 3.8 図表

図表タイトルには、図1、図2、表1、表2のようにそれぞれ連番とタイトルをつけること。図のタイトルは図の下方に、表のタイトルは表の上方につける。表作成時の例として、使用するフォントをまとめたものを表1に示す。

表1 使用するフォントのまとめ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | フォント | サイズ |
| 題名（日本語） | MS Pゴシック | 14P |
| 副題（日本語） | MS Pゴシック | 12P |
| 著者名（日本語） | MS P 明朝 | 10P |
| 題名（英語） | Arial | 14P |
| 著者名（英語） | Times New Roman | 10P |
| Abstract | Times New Roman | 10P |
| 本文 | MS P 明朝 | 9P |

原則として、図表は1段に収まるようにレイアウトすること。収まらない場合は、巻末に記載する。また、図表中で使用するフォントは、見読可能となるよう、極力、本文と同程度の大きさに調整すること。図1に例を示す。



図1　図を挿入した例

図を挿入する場合は、図の下（このエリア）のキャプションを記載する。フォントはMS P ゴシック、サイズは9P。

図表のタイトル・説明で使用するフォントは、MS P ゴシックまたはMSゴシックとし、フォントサイズは9Pとする。段落の行間は固定値とし、間隔を12Pとする。段落前は4Pのスペースを空け、段落後はスペースを空けないこと。

# 3.9 参考文献

参考文献の書き方は、医療情報学会誌に準じることとする。文献の項の書式は、バンクーバー・スタイル（the Vancouver style）に従うものとする。

参考文献は、本文該当部の右肩に、引用順に番号を片括弧で記し、本文最後の参考文献の項に整理して記す。

参考文献で使用するフォントは、和文の場合はMS P明朝、英文の場合はTimes New Romanを用いること。フォントサイズは8Pとする。段落の行間は固定値とし、間隔を10Pとする。

本テンプレートの最後の参考文献に、例を示している。なお、ここに示す例は、医療情報学会誌の執筆要領より得たものである。

# 3.9.1 雑誌の場合

雑誌の場合は、著者名. 題名. 雑誌名 発行年；巻：通巻ページ（始め－終わり）. とする。1) 2)

参考文献の1) 2)に例を示す。

# 3.9.2 書籍・単行本の場合

書籍・単行本の場合は、著者名. 題名（編者名）. 書名. 発行地（外国の場合のみ）：発行所, 発行年：ページ（始め－終わり）. とする。3) 4)

参考文献の3) 4) に例を示す。

# 3.9.3 著者名

著者名が6名以下ならば全員を記す。7名以上の場合は最初の3名のみを列記し、それに「ら」を、英文の場合は“et al.”を付記する。著者名と著者名の間にはコンマを入れる。日本人著者名は、姓と名を書く。

# 3.9.4 雑誌名

雑誌名については、略式雑誌名のあとに省略記号（.）をつけない。これについても、参考文献の例を参照されたい。

# 3.9.5 オンライン上の文献

オンライン上の文献の場合は、著者名. 題名. 発行地（外国の場合のみ）：発行所, 発行年［URL（引用した年―月―日）］を記載する。5) 6)

参考文献の5) 6) に例を示す。

# 3.10 箇条書き

箇条書きについては、以下の種類を、必要に応じて体裁を考慮して利用すること。

1, 2, 3, …

a, b, c, …

A, B, C, …

i, ⅱ, ⅲ,…

I, Ⅱ, Ⅲ, …

# 3.11 スタイル

各項目の書式要素は、メニューの「ホーム」タブにある「スタイル」に登録されている。文字入力後、範囲指定してスタイルを選択すると、そのスタイルに記載されている項目の書式が適用される。

# 3.12 その他・謝辞

倫理委員会の受審の有無、COIの報告事項について記載すること。

研究助成を受けて行った研究については助成に関する情報を記載すること。

3.13 連絡先

　本詳細抄録について問い合わせができるように、抄録の最後に「連絡先」のセクションを設けて、First Author、Corresponding Authorへの連絡先の情報を記載すること。

# 4.頁数制限

頁数は2ページ以上、6ページ以下とすること。

# 5.提出期限

詳細抄録の記載方法についてまとめた。詳細抄録は、期限内に提出すること。

# 参考文献

1) 多仲浩志. 医学・生物学における数学論理. 医療情報学 2008 ; 28 :13-26.

2) Tanaka K, Hara K. Estimation of location and size of myocardial injury site from body surface potential distribution using ECG inverse solution. Jpn Heart J 1986 ; 27 : 235-44.

3) 貝原益軒, 井上馨, 郷邑要市. サブルーチン問題. 応用数学講座. 岩波書店, 1993.

4) 桂太郎. 医療情報の標準化. 新版医療情報「医療情報システム編」. 篠原出版新社, 2009 : 224-40.

5) Hooper JF. Psychiatry & the Law: Forensic Psychiatric Resource Page. Tuscaloosa: University of Alabama, 1999. [http://bama.ua.edu/~jhooper/ (cited 2007-Feb-23)].

6) 標準的電子カルテ推進委員会. 最終報告. 厚生労働省医政局研究開発振興課, 2005. [http://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/05/dl/s0517-4b.pdf (cited 2011-Nov-11)].